

# はじめに

著者	泉沢 久美子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
シリーズタイトル	文献解題
シリーズ番号	38
雑誌名	エジプト社会における女性：文献サーベイ
ページ	i-iii
発行年	1993
出版者	アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00015836">http://hdl.handle.net/2344/00015836</a>

## はじめに

本文献解題は、編者がアジア経済研究所海外派遣員として1989年3月から1991年3月までエジプトのカイロ大学に派遣された際の成果の一部である。

近年における第三世界の女性に対する関心の高まりとともに、開発における女性の重要性が認識され、WID (Women in Development) というひとつの新しい概念が生まれるまでに至っている。この考え方は、1975年の「国際連合婦人の10年」を経て、現在では国連をはじめとする国際機関や先進国の1990年代における開発援助の優先課題のひとつとなっている。また、日本においても国際協力事業団などを中心として実践的に取り組まれ始めている問題である。

しかし他方、日本では第三世界における女性の研究は、あまりみられず、その存在すら認識されていない観がある。特にアラブ女性に関する研究は、ごく一部の文化人類学者を除いてほとんど試みられていないのが現状である。したがって、女性に対する開発援助を考慮する前にまず、アラブの女性たちがどのような歴史を経てきたのか、どのような状況で生活してきたのか、など女性を取り巻くさまざまな環境を理解することが肝要と思われる。この意味において幅広い分野の女性問題研究が生まれることが期待されるところである。

本書は、これからエジプト、あるいはアラブ世界の女性研究を手がけようという研究者や学生などに、エジプト女性の状況についておおまかな理解を導き、研究の手がかりとなる文献を提供することを目的にしたものである。

本書の構成は、序章の他に7章から成り、各章末にアラビア語と欧語文献の目録を収録した。まず、序章においてエジプトを含めたアラブ世界全体の女性に関する研究動向を紹介し、これまでの女性研究の流れや問題点を概説する。そして、第1章では、女性の公的な地位と役割に多大な影響を及ぼしたエジプトの近代化過程における女性解放および女性の政治参加について、第2章では、公的な女性の地位と役割、あるいはジェンダー概念において、エジプト社会のみならずアラブ社会全体を強く支配しているイスラームと女性の関係について、第3章においては、家庭における男女の役割や地位に深く関わりを持つ身分法を中心に文献を取り上げる。また第4章と第5章では、上記の近代化やイスラームの解釈の変化のなかで女性の労働状況と教育状況がどのように変化し発展したかについて扱った文献を紹介する。さらに第6章においては、上記の近代化や労働・教育の進展から隔絶した都市下層および農村女性など、貧困層における社会的環境とジェンダー概念、あるいは社会変化とのかかわりで農村女性を扱った文献について説明する。そして最後に第7章では、このような貧困女性を国家開発のなかにとり込むための政府政策や国際機関あるいは海外の援助機関が実施した調査研究や女性向けプロジェクト、特に開発の阻害要因になっている人口増加と家族計画、あるいは保健・衛生などに関する文献などを紹介するものである。

本文献解題は、アジア経済研究所図書資料部がすでに所蔵しているか、もしくは編者が

エジプトにおいて収集した文献を収録するように努めた。しかし一部の文献は、エジプトや日本の図書館において閲覧したものであり、本研究所で未所蔵のものも含まれ、今後の収集が課題となっている。

本書の刊行にあたり、ご助力をいただいた多くの方々に、この場を借りてお礼を申し上げたい。特に客員研究員として迎えて下さったカイロ大学前文学部長のAbdel-Aziz Hammuda博士、文献のアドバイスや専門研究員を紹介して下さいましたSoher Lutfi 博士をはじめとする社会犯罪研究センターの女性研究員や図書館司書の皆さまなどに、心から感謝の意を申し上げたい。

さらに本書の作成においては、本研究所のエジプト研究者である長沢栄治氏、インド研究者で発展途上国の女性問題にも造詣が深い押川文子氏から、それぞれ貴重なご助言をいただいた。ここで改めて深く感謝する次第である。しかし、本書中の誤謬や文献の解釈は、すべて執筆者個人の責任であることを明記しておきたい。

1993年 3 月      泉沢 久美子

## 凡 例

1. 各章別に、文献解説、アラビア語文献目録、欧語文献目録の順で掲載した。
2. 文献解説中では、紹介する文献について、アラビア語文献、欧語文献ともに著者名(姓のカタカナ表記およびローマ字表記)、論文名の和訳、章末の文献番号(Aはアラビア語、Eは欧語を示す)を掲載した。
3. 文献目録には、単行書、雑誌論文、会議報告書などが含まれるが、数点の例外を除いて学位論文は割愛した。
4. 文献目録の配列順序は、著者名(共著の場合は第一著者)のアルファベット順で、書誌事項は、次の順で記述した。  
＜単行書＞ 著者名、書名(単行書中の一論文の場合にはカッコ内に単行書名を記入)、出版地、出版社、出版年、ページ、シリーズ名等  
＜雑誌論文＞ 著者名、論文名、雑誌名、巻(号)、出版年月、ページ
5. 文献情報は、主に原典を参照したが、文献目録、引用文献などの二次資料などにも依った。
6. 各主題にまたがるものは、限定的に重複して掲載した。
7. 1970年以前に刊行された文献は、選択的に採録した。
8. 欧語文献は、英語文献が中心であるが、若干の仏・独語も掲載した。
9. 巻末の著者索引は、同一著者であっても欧語、アラビア語文献を分けて掲載した。また、著者名のローマ字表記方法は、文献の表記どおりに記入した。
10. 著者索引は、文献解説あるいは文献目録の文献番号と解説の収録ページを示す。